

調査の「総括表」について

教育委員会



「総括表」(各学校ごとに作成されます)の横項目は、全国学力調査・学習状況調査実施教科(国語A、国語B、算・数A、算・数B、理科)、学習意識、学習状況、の項目で、縦項目はそれぞれの横軸の教科や項目に対する分析や取り組みの状況です。

ここには、児童・生徒の各教科の学力の現状が書かれています。小学校では学年の先生、中学校においては担当教科の先生が担当しています。全国学力調査・学習状況調査結果のうち、正答率が国や県平均を上回った問題、正答率の低い問題等に分類します。また、正答率の分布等も記載しています。

ここでは、このような分類・分布等から、児童・生徒がどんな内容・分野や単元の学びが定着しているか、あるいは定着していないかを分析し、先生方が授業改善の手立てを考えます。先生方が学校で行っている現在の授業方法や教材等について具体的にどのように改善すべきかを記載しています。

ここには、学校で行われている様々な授業形態、例えば「少人数」「30人学級」「チームティーチング」「教育支援員」「教員・講師・加配講師」「取り出し授業」「補習」「小中高連携」など、授業形態との関係、学校の教育目標や教育方針との関係などについて、学校運営をしている校長先生が総合的に考察し、今後学校が取り組むべき課題・項目などを記載しています。

ここには、行政の役割と、市町村行政施策と関連した教育委員会による諸教育施策との関連が記入されています。立科教育を推進するための保小中高連携事業など、各学校に対する支援方法、児童・生徒の健全育成のための教育施策が成果を上げているかなどを記載しています。

ここでは、学習意識・学習状況について、児童・生徒の回答結果から特徴的な点や傾向を分析して記述しています。各教科の好き嫌い、日々の生活実態、たとえば、朝食の有無・睡眠時間・テレビの視聴時間・家庭学習時間・ゲームの時間などのほか、自尊感情・規範意識、また、家庭の学校行事への参加率等が考察されています。国からの結果も参考にしつつ、この「総括表」を軸に立科町の全児童・生徒の意欲の向上や学力向上を目指しています。